

なかむらとくべつしえんがっこうだより

よこはましりつなかむらとくべつしえんがっこう
横浜市立中村特別支援学校

こうりゅう・じんけん ぶ
交流・人権部

ねん がつ
平成30年3月

どりよく 「努力」と「やればできる」

よこはましりつなかむらとくべつしえんがっこう
横浜市立中村特別支援学校

こうちょう よしはら まさる
校長 吉原 まさる

そつぎょうせい そつぎょう
卒業生のみなさん、卒業おめでとございます。

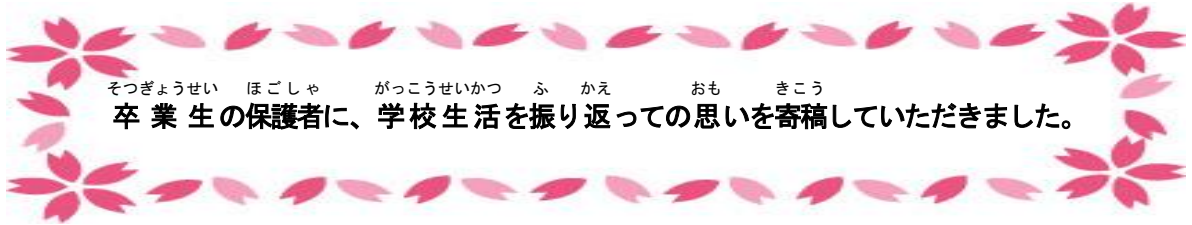
リオデジャネイロのパラリンピックの閉会式でダンスのパフォーマンスをしたプロダンサーのおおまえこういちさんのテレビが放送されていました。障害があっても目標に向けて取り組む姿は感動的なものでした。

障害があることで、ない人より一つのことをやり遂げるには多くの困難なことがあります。困難なことを理解し、自分の目標を立てて、少しでも目標に近づくようにできることを増やしていくことが、成功につながっていると感じました。日々の成果はわずかでも、結局、自分のペースで最後まで努力した人がやがて成功します。

もう一つ大切なことは、人間の基本的資質は努力次第で伸ばすことができるという信念です。心理学では、「しなやかな心のもち方(growth mindset)」といわれています。ひとことと言うと「やればできる」という気持ちだと思います。障害があるからできないなど自分で限界をもたないで、障害があっても努力と経験を重ねることで誰でも大きく伸びるという信念をもつことが、これからの人生のいろいろな試練を乗り越える力になります。たぶん、おおまえこういちさんも自分で限界をつくらないで、常にチャレンジしていくことが、このような感動をあたえるダンスにつながっていると感じました。

卒業生のみなさんも「やればできる」という精神で自分なりにスモールステップの目標を立て、新しい学部や社会での活動につなげてください。





そつぎょうせい ほごしゃ がっこうせいかつ ふ かえ おも きこう
卒業生の保護者に、学校生活を振り返っての思いを寄稿していただきました。

「オランダへようこそ」

こうとうぶ ねん おの ゆうた
高等部3年 小野 裕太
おの あさこ
小野 麻子

これは、あるアメリカ人作家が書いた詩です。昨年のテレビドラマで紹介されたので、ご存知の方も多いでしょう。イタリア旅行の準備をしていたのに、飛行機が着陸したのは予期せぬオランダ。障害のある子供を思いがけず授かった親の気持ちが表現されています。

裕太は普通分娩で生まれましたが、生後2日目に容態が急変し、低血糖により脳に損傷を受け、障害が残りました。両親が共働きだったため、生後8か月から保育園に入りましたが、発達は遅々として進まず、年齢が下の子供達にどんどん追い抜かれ、こんなはずじゃと、つらい日々をすごしました。裕太は裕太、このままでいいと思えるようになったのは、ようやく3歳になってからでした。

そんな時に支えになったのは、同じく障害のある子供を育てる家族、療育センター、学校、ヘルパーさんなど、たくさんの人たちでした。裕太が障害を持って、「オランダ」へ来たからこそ出会えた心の温かい、優しい人たち。そして、私達夫婦も人生についてたくさんのことを学びました。中でも中村特別支援学校では、先生方は、本当に親以上に裕太の気持ちを汲んで、ちょっとした表情の変化に対応し、大切に接してくださいました。学校では意欲的な顔、口をシュッとすぼめる集中した表情を見せ、家とは違う環境を楽しんでいることがよくわかります。そんな中村での12年間は、振り返ってみるとあっという間でした。卒業を迎え、荒海に小さなボートで放り出されるような不安な気持ちです。

でも初めは戸惑ってばかりいた「オランダ」も楽しめるようになったのですから、新しい世界も頑張らなくて。次はスウェーデン？それともブラジル？それでも時々、古巣に戻って愚痴を聞いてもらってリラックスできたらと思います。

最後に、本当にお世話になりました。中村は最高でした！ありがとうございました。

